



横浜市が支援する防寒服等がオデーサ市に到着しました！



11月4日、オデーサ市長から防寒対策が喫緊の課題であるため、防寒服と靴の中敷用カイロの要請を受け、横浜市では、緊急支援を行うこととしました。

この度、発送した支援物資が12月13日（現地時間）までに全てオデーサ市に到着しました。今後、オデーサ市民の皆様にご利用いただく予定です。

1 到着日時

第1便：令和4年12月12日（月）9時頃（現地時間）
（日本時間12月12日16時頃）

第2便：令和4年12月13日（火）9時頃（現地時間）
（日本時間12月13日16時頃）

※支援物資は2台のトラックで陸送しました。

2 輸送経路 ※日付は全て現地時間

成田空港発（12月4日）	} 空輸
ドイツ・フランクフルト市着（12月4日）	
ウクライナ・オデーサ市着（12月12日・13日）	



位置図

3 支援物資

- ・ 防寒服（上下）1,900セット
- ・ 防寒服（上）80着 ※消防局の備蓄品
- ・ 靴の中敷用カイロ10,000足

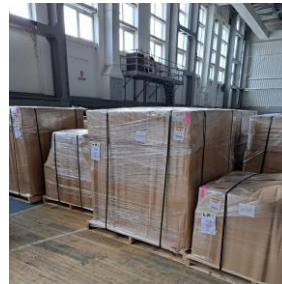


支援物資

4 到着状況



貨物トラックからオデーサ市の倉庫への搬入



オデーサ市ゲネディー・トゥルハノフ市長（右から4番目）と横浜市からの防寒服を着用した同市職員（右端の3名と左端の2名）

5 到着後、オデーサ市ゲネディー・トゥルハノフ市長から横浜市に寄せられたコメント（要旨）

先週2度にわたってウクライナ南部への攻撃があり、オデーサ市では電気や熱の供給が多大な影響を受けています。このような中、今回の支援はオデーサ市民にとって大きな助けとなるもので、横浜市の友情に心より感謝いたします。

お問い合わせ先

国際局国際協力課国際技術協力担当課長 横内 宣明 Tel 045-671-4712

ウクライナ国オデーサ市へ防寒対策物資を緊急支援します！

～ 移動式浄水装置に続く現地人道支援第二弾 ～



横浜市の姉妹都市であるオデーサ市では、厳しい冬を迎えようとする中、防寒対策が喫緊の課題となっており、横浜市に対して現地から緊急人道支援の要請がありました。

そこで、横浜市よりオデーサ市へ防寒服及び中敷用カイロを供与します。

1 経緯

オデーサ市の緊急支援要請を受けて、本年7月に緊急時に飲用水の供給に役立てていただくため、移動式浄水装置 33 台をオデーサ市へお届けしました。オデーサ市へ浄水装置が到着して以降は、技術協力をオンラインで続けています。

11月4日にオデーサ市トゥルハノフ市長から、屋外で建物や道路の復旧作業に携わるオデーサ市民や、ウクライナ国内からオデーサ市へ避難している方々への防寒服と中敷用カイロの支援要請がありました。

そこで、今回、横浜市が防寒服等を調達し、オデーサ市へお届けすることとしました。

2 今回支援する防寒対策物資



3 今後の輸送

防寒対策物資は、横浜市が契約する輸送業者が行い、12月中旬のお届けを予定しています。

オデーサ市の概要

【人口】 約 108 万人

【面積】 約 116 平方キロメートル

【地理】 首都キーウ、ハルキウにつぐウクライナ第3の都市で、黒海に臨む港湾都市。

【姉妹都市提携の経緯】

1964 年にオデーサ市から姉妹都市提携の打診を受け幾回かの交流を積み重ね、横浜市とオデーサ市は、共に戦火による焦土の中から復興したこと、また国際港湾都市であることをご縁として、1965 年(昭和 40 年)7 月 1 日に姉妹都市となりました。

【オデーサ市への支援】

オデーサ市からの緊急支援の要請を受けて、横浜市がオデーサ市へお届けした移動式浄水装置は、全33台(うち11台は JFE エンジニアリング株式会社の寄附)のうち5台が、オデーサ市から水道施設が機能停止している近隣のミコライウ市へ貸与され、市民への水供給のために活用されています。残りの浄水装置についても、オデーサ市が試運転や水質の確認、操作方法の確認などを行っており、緊急時にいつでも使えるように準備が進められています。

お問い合わせ先

国際局国際協力課国際技術協力担当課長 横内 宣明 Tel 045-671-4712